

新型コロナウイルス感染の危険事例

～過去の感染事例から～

1 狭い会議室で長時間の会議を行わない。

- 10人程度が狭い会議室で、隣との間隔を空けずに、1.5mほどの距離で向い合せに着席し、数時間に及ぶ会議を開催した。
 - 熱が下がったばかりで、咳をしている人が会議に参加していた。
 - 長時間に及んだため、参加者はマスクをはずしている時間もあつた。
 - 1時間に1回、入り口のドアを開けて換気をしていた。
- ⇒ 参加者の半数が、新型コロナウイルスに感染した。

- ◇会議室は、座席の間隔を広く取り、向かい合わせる場合は距離2mを確保。
- ◇症状のある人や体調不良の人は、会議に出ない、そもそも仕事を休む。
- ◇会議では常にマスクを着用し、短時間で終わらせよう。
- ◇窓とドアを同時に開けて、1時間に2回以上、小まめに換気を行おう。

2 カラオケをしながらの飲食は、リスクが高い。

- 友人たち数人が、カラオケ店の一室で飲食しながらカラオケを楽しんだ。
 - 症状のある人は誰もいなかった。
 - 飲食をするため、マスクは付けたたり、はずしたりしていた。
 - 参加者の1人が、翌日新型コロナウイルス感染症を発症した。
- ⇒ 他の参加者の多くが、新型コロナウイルスに感染した。

- ◇発症2日前から感染力があるので、話すときだけでなく、歌うときも必ずマスクを装着しよう。「食べるなら歌わない、歌うなら食べずにマスク着用」
- ◇飲食時はマスクができないため、話したり歌ったりはしない。それができないのであれば、カラオケをしながらの飲食はやめて歌唱に専念しよう。
- ◇窓とドアを同時に開けたり、換気装置等により、必要な換気を確保しよう。

3 食事会は、食事と会話を分けて楽しもう。

- 首都圏から帰省した親族を迎えて、家族数人で夕食を摂りながら歓談を楽しんだ。
 - その帰省した親族が、数日後に新型コロナウイルスのPCR陽性と判明した。
- ⇒ 食卓を囲んだ家族の大半が、新型コロナウイルスに感染した。

- ◇飲食時はマスクができないため、飲食時間と会話時間を分けることを、あらかじめ申し合わせておき、飲食時の会話を避け、食後にマスクをして会話しましょう。「黙々もぐもぐタイムのあとで、マスクでおしゃべりタイム」
- ◇飲食中にどうしても会話したい場合は、充分換気し、距離を出来るかぎり2m確保し、面と向かわず、小声で短時間で済ませましょう。

4 今、帰省が必要か、もう一度家族でよく話し合ってみましょう。

- 首都圏から親族が帰省し、2日後に1日だけ発熱し、味覚の低下があった。
 - この帰省した親族の発熱後、1週間前後で家族数人が次々と発熱した。
- ⇒ 発熱した家族は全員、新型コロナウイルスに感染していた。

- ◇特に流行拡大地域から帰省した親族と近距離で会話する際は、家庭内でもマスクを着用し、手洗いを励行し、十分な換気を行いましょう。
- ◇帰省した親族が、発熱や体調不良をきたした際は、速やかに帰国者・接触者相談センターに相談しよう。
- ◇帰省した親族を迎えた家族が、発熱や体調不良をきたした際も、速やかに帰国者・接触者相談センターに相談しよう。

5 感染拡大地域への出張は、最小限にしてマスクを常に着用しよう。

- 中京圏に数日間泊まりがけで出張した。
 - 出張から帰った後、数日後に発熱し、鼻詰まりと嗅覚障害も出現した。
 - 数日様子を見ていたが、微熱と鼻詰まり、嗅覚障害が続いた。
 - その出張先事業所で、新型コロナウイルス陽性者が複数発生したと連絡を受けた。
- ⇒ 帰国者・接触者相談センターに相談し、PCR検査を実施し陽性が確認された。

- ◇感染拡大地域に出張する際は、日程を最小限にし、常にマスクを着用しよう。
- ◇感染拡大地域の夜の街を訪れるのは、控えましょう
- ◇出張から帰って体調不良を感じた際は、速やかに帰国者・接触者相談センターに相談しよう。